

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

中学校 第2学年(国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語 189人	社会 189人	数学 189人
	理科 189人	英語 189人	

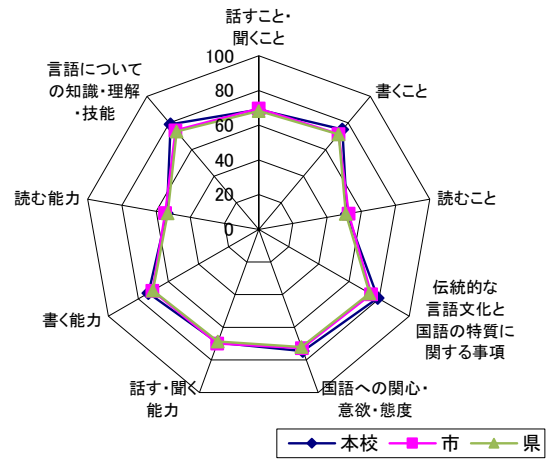
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.0	69.6	68.2
	書くこと	75.0	71.7	71.5
	読むこと	51.6	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.2	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	74.6	72.8	72.1
	話す・聞く能力	69.4	69.9	68.7
	書く能力	73.3	70.7	70.3
	読む能力	53.7	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	79.0	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

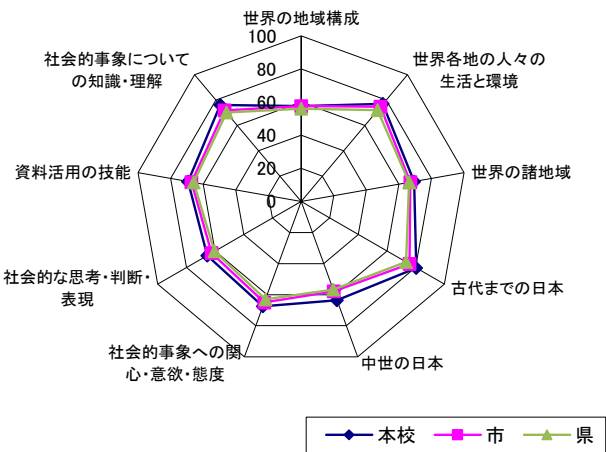
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県の平均を0.8ポイント上回っている。 ○話の内容を正確に聞き取るという問題の正答率は、県の平均を3.1ポイント上回っている。 ●市の平均を0.6ポイント下回っている。 ●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫に関する問題の正答率は、県の平均を0.8ポイント下回っている。	・人の話を聞いて、その話の要点を聞き取る力が身に付いている生徒は多いが、要点をより分かりやすく整理し、伝えるための工夫ができていない生徒が多いことが分かる。資料を要約することに慣れていくことで正答率が上がっていくと考えられるので、聞き取りのテストを通して要点を捉え、文章にしてまとめる課題に重点的に取り組ませる。
書くこと	○市、県の平均を上回っている。 ○作文に関する設問については、指定された文字数で書く問題や読みとった内容を明確に書く問題の正答率は、県の正答率を6ポイントほど上回っている。	・書くことに関する問題の無回答率は、全ての問題で10%と高かった。自分の考えを明確にして言葉にすることや、書くこと自体に対して抵抗がある生徒が多いことが課題として挙げられる。授業中に空欄へ当てはまることを補う問題を用意したり、適宜授業の中で短作文等を書いたりするなど、書く習慣づけができるような指導を行っていく。
読むこと	○県の平均を0.6ポイント上回っている。 ○文章の捉えて、その内容を整理するという問題の正答率は、県の平均を6ポイント上回っている。 ●市の平均を1ポイント下回っている。 ●文章の表現の特徴をとらえる問題の正答率は、県の平均を5.7ポイント下回っている。	・文学的文章の読解に関して、場面の展開をきちんと理解している生徒が多いが、登場人物の心情理解を苦手としている生徒も多いことが分かる。段落ごとの読解だけではなく、物語全体の中での各段落同士の関係性などを把握できるような授業展開を行っていく必要がある。また、説明的文章については、要点を捉える指導だけでなく、段落相互の関係性を把握させることで、読解力を伸ばしていけるよう指導を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市、県の平均を上回っている。 ○小学校で学習した漢字に関する問題の正答率は、県の平均を3.5ポイントも上回っているものもあるなど、ほぼ全ての問題で高い正答率であった。 ●平均の正答率が高かったものの、無回答率がほぼ全ての問題で10%を上回っていた。	・学習している単元についての漢字テストの実施だけではなく、折を見て、1学年の単元や小学校の既習漢字のテストを実施していく。また、文法に関して、1学年の範囲の正答率は高かったが、用言の活用や助詞、助動詞等の難易度が高いものの学習も始まるので、適宜既習事項の確認等も行っていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	57.5	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	76.9	74.6	71.9
	世界の諸地域	69.3	67.0	66.3
	古代までの日本	80.4	75.7	73.3
	中世の日本	63.6	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	67.5	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	65.5	62.5	60.5
	資料活用・技能	69.3	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	76.0	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

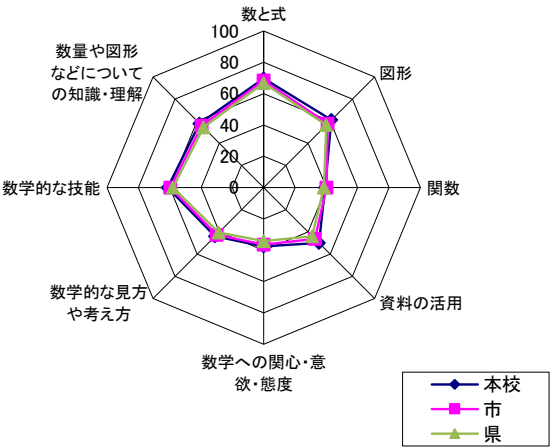
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○県の平均を1.5ポイント上回っている。 ○世界の地域区分に関する知識・理解が県の正答率を9.5ポイント上回っている。 ●地図の読み取り、地図の特色の把握が苦手な生徒が県と比べ多い。	・授業での振り返りや、課題への取り組みにより、基本的な知識の理解度、定着度が高い生徒が多い。しかし、細かくみていくと、さまざまな地図の見方や読み取りを不得手としている生徒がおり、その内容について集中的に取り組んでいく。
世界各地の人々の生活と環境	○市の平均を2.3ポイント、県の平均を5ポイント上回っている。 ○世界の自然環境や、生活の特色を理解し、地図上で把握する技能が県の正答率を9.5ポイント上回っている。	・表やグラフ等の統計資料を読み取り、思考・判断し表現する能力を身に付け高めるため、授業の中で取り組む時間を増やしていく。
世界の諸地域	○県の平均を3ポイント上回っている。 ○世界の地形に関する地図の読み取りや、世界の農業に関するグラフからの分析・判断が、県の正答率を7ポイント以上上回っている。 ●産業インフラを地図から把握する問題では県平均を下回っている。	・地理的分野においては、ICTを活用し、映像資料等を授業において随時効果的に利用していく。
古代までの日本	○市の平均を4.7ポイント、県の平均を7.1ポイント上回っている。 ○知識・理解に関して、正答率が高い。 ●年表のできごとと、政治のしくみの関わりについて最適な説明文を選択する問題では、県平均は超えているが、正答率は下がっている。	・年表を用いて、政治、社会、文化、外交のつながりを考えさせる時間を設け、理解を深められるようにする。
中世の日本	○市の平均を5.7ポイント、県の平均を6.9ポイント上回っている。 ○資料活用・技能に関する問題の正答率が特に高い。 ●歴史のできごとを年代順に並び変える問題、中国と当時の日本の関係について説明する問題の正答率が、かなり下がっている。	・それぞれの歴史的なできごとのかかわり(因果関係)、国と国とのかかわり(外交関係)などを考える活動を通して、思考力を高められるようにする。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	69.7	68.4	66.8
	図形	61.1	57.8	56.5
	関数	39.2	40.1	38.5
	資料の活用	50.0	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	37.5	36.4	34.1
	数学的な見方・考え方	44.0	42.5	40.5
	数学的な技能	61.3	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	57.9	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

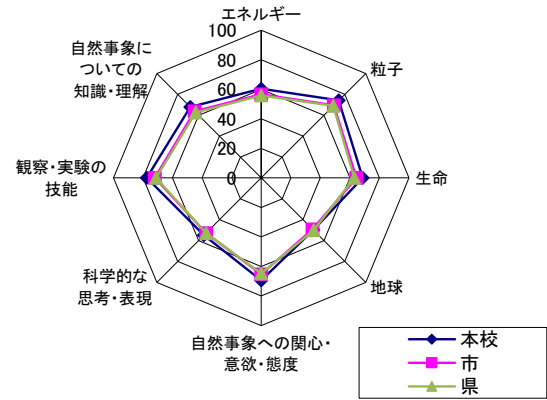
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の平均を1.3ポイント上回っている。 ○与えられた文章題に対して、適切な1元1次方程式を立式することや、1元1次方程式を解いて文章題を解決することについて、県の正答率をそれぞれ5ポイント以上上回っている。 ●正負の数や文字式の減法が苦手な生徒が県と比べると多い。	・学年全体で基本的な内容の小テストを積極的に取り組んでいる。そのため、基本的な計算が身に付いている生徒は市に比べて多い。しかし、細かくみていくと減法を苦手としている生徒が多いため、その内容を集中的に取り組んでいく。
図形	○市の平均を3.7ポイント、県の平均を4.6ポイント上回っている。 ○おうぎ形の面積を求める問題では、正答率が県平均を13ポイント以上上回っている。 ●与えられた図と文章から、適切な作図を考察し、作図をする問題では、正答率は県平均と変わらないものの22.8ポイントと低く、苦手とする生徒が多い。	・「立体の位置関係」「回転体」などの図形についての知識・理解や「おうぎ形の面積」などの数学的な技能は学習内容が十分に定着されている。しかし、図や文章に適した作図をする問題では、「線分の垂直二等分線」の性質などへの見方・考え方が不十分であった。グループ活動を通して、作図の仕方だけでなく、その性質への理解を深めることができるよう取り組んでいく。
関数	○関数についての理解、比例の式を求めること、比例のグラフを書くことの正答率は、県平均より上回っている。 ○与えられた式から問題を解決する方法を数学的に説明することは県平均を4.2ポイント上回っている。 ●与えられた数量から、2つの関係が比例であることを判断する、反比例のグラフと式を理解することは、県平均を下回っている。	・基礎的・基本的な技能の習得のため、毎時間の振り返りテストを実施し定着させる。また、折に触れて、昨年度の関数分野に関することを学び直しをする時間を設ける。 ・表・式・グラフそれぞれの技能を身に付けさせ、活用の問題では、それらを関連づけて考える力も身に付けさせる。
資料の活用	○度数分布表から階級の相対度数を答える問題は、県平均より15ポイント上回った。また、真の値の範囲を不等号を使って表す問題や階級の幅を求める問題は、県平均より7ポイント上回った。 ●代表値を判断する問題では、県平均を下回っている。	・入試に出題されるにもかかわらず、おろそかにしがちな単元であるため、授業で積極的に小テストや振り返りを行い、復習を徹底させる。 ・表を読み取り、表現する力を身に付けさせるために、授業でグループ学習で話し合ったり、自分の言葉で発表したりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	60.4	56.6	55.8
	粒子	74.2	69.6	69.0
	生命	68.7	64.4	63.0
	地球	49.8	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.4	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	54.8	52.8	52.8
	観察・実験の技能	77.5	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	67.9	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

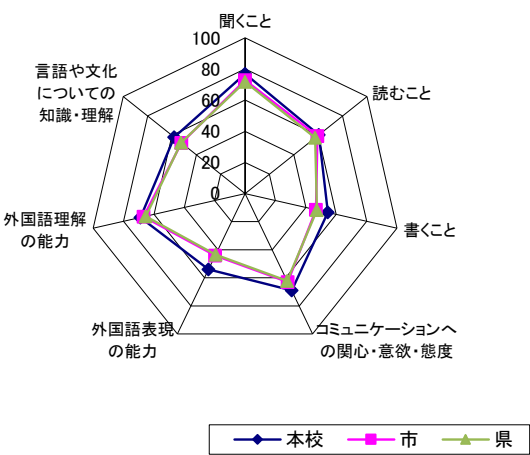
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均を3.8ポイント、県の平均を4.6ポイント上回っている。スクリーンに写った実像を考える問題で特に正答率が高かった。 ●音が伝わるまでの経路の説明を記述する問題、面積の大きさと圧力の関係の問題で正答率が低かった。	・自分の言葉で表現することが苦手な生徒が多いので、授業で話し合う場面や考えを記入する場面を取り入れていく。 ・中学生の物理嫌いをなくしていくためにも、身近な実験例を見せてイメージさせることで、基本の定着をさせていく。
粒子	○市の平均を4.6ポイント、県の平均を5.2ポイント上回っている。物質の状態変化、二酸化炭素の発生方法や質量パーセント濃度についての問題で正答率が高い。 ●グラフから読み取って、析出した結晶の量を計算する問題の正答率が低い。 ●2つの物質を区別する方法を記述する問題で正答率が低かった。	・目的意識をもって実験に参加できるように、実験を行う際に、生徒たちが自分たちのもっている知識を利用し、実験の方法を考え、計画を立てることを取り入れていく。 ・グラフの読み取りを苦手としている生徒が多いので、丁寧に問題演習をさせていく。
生命	○市の平均を4.3ポイント、県の平均を5.7ポイント上回っている。実験器具の使い方、植物の分類に関する問題で正答率が高かった。 ○2つの実験から考察できることを答える問題では、県の正答率よりも14.8ポイント高い。 ●対照実験を行う理由を答える問題の正答率が低い。	・実験の考察はよくできているので、実験後、自分の考えを書く時間を十分に確保したり、班の人たちと話し合いをし考えを深めたりする活動を繰り返し行っていく。 ・対照実験はくり返し教科書で出てくる実験である。用語が出てくるたびに確認をし、用語の定着を図る。
地球	○市の平均を0.6ポイント上回っている。 ●火山の単元では、市平均より2.0ポイント、県の平均より2.9ポイント下回っており、苦手とする生徒が多い。岩石の特徴から火山の形を推測したり、岩石の種類を答えたりする問題で正答率が低かった。	・自然のさまざまな現象について、既存の知識を使って考える、推測する時間を設け、その力が身に付くような指導を工夫していく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.9	72.8	71.8
	読むこと	60.6	59.4	57.5
	書くこと	54.5	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	69.0	63.0	62.2
	外国語表現の能力	54.0	44.2	43.6
	外国語理解の能力	68.9	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	58.2	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○県・市ともに上回っている。対話の内容を聞き取り、適切に回答する問題では、頭の中でイメージしやすいのか正答率は高めになっている。 ●聞きとる事柄が複雑になると正答率は低くなっている。 まとものある英語の聞き取り、英語の知識を問うような問題は正答率が低い。	・普段から英語に耳が慣れておくことが大切である。また、英単語やイディオムをいかに知っているか、英語らしい発音をきちんと聞き取れるか、ということも重要であるため、それらの力を高める指導を工夫していくことが正答率アップにつながる。そして、スモールトーク等、コミュニケーション活動を多く取り入れる。
読むこと	○県・市ともに上回っている。構文や文法の知識を身に付けており、おおむね文章の内容を理解できている。 ●長文のメールの内容を把握する問題では、県よりもやや下回っている。まとものある英文から、適切な情報を読み取ることが苦手である。また、指示語を答える問題に対しても苦手意識があるように感じられる。	・ある程度まとまった文章を読む練習を多く取り入れる。制限時間を設けて読ませるなど工夫をし、読解の力を付けさせる。また、教科書の音読を積極的に行い、読み取る力とともに単語を正確に読める力も向上させていく。
書くこと	○県・市ともに上回っている。特に、単語を正しく書く問題や整序問題(命令文や一般動詞の過去形の疑問文)では、県よりも上回っている。 ●古い(old)と単語を書く問題では、県よりも正答率が非常に低くなっている。	・既習の表現を確認しながら、英作文で有効な表現を教師側が提示し、3文程度の英文を書く練習を取り入れる。また、英語の語順をしっかりと理解できるよう指導していく。小さな頑張りを認め、自信をもって書けるようきめ細かな支援も行っていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○学習に対して肯定的な回答が多くみられる。特に、「学校の宿題は、自分のためになっている」という質問について93.7%、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という質問について88.4%の生徒が肯定的な回答をしている。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」という質問について85.1%という質問に対して肯定的に回答しており、学級での意思疎通が図りやすく、居心地のよい集団を形成していると考えられる。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問の肯定的な回答が県平均より4.0ポイント、市平均より3.1ポイント低く、授業のねらいに対してきちんと振り返ることができるよう指導をしていく必要があると考えられる。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問について肯定的な回答は76.2%いる。しかし、「どちらかといえば、はい」という回答の生徒は県の平均を5ポイント下回っており、否定的な回答の割合も高いことから、消極的に授業に参加している生徒の割合も少なくはないと考えられる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という質問について65.6%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」とい質問について48.6%肯定的な回答をしている生徒がいる。この回答の割合は、県、市の平均を上回ってはいるが、「話し合い活動」への前向きな姿勢や、考えを深め広げたりすることができる生徒の割合の高さを考えると、自分の考えを表現することに対して苦手意識をもっていることが分かる。

○「自分には、よいところがあると思う」という質問について82.5%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問について91.0%、「自分がもっている能力を十分に発揮したい」という質問について94.2%が肯定的に回答している。このことから、自己肯定感や自己有用感を多くの生徒がもち、物事に対して前向きに取り組み、周囲の人たちに還元したいと考えている生徒が多いと考えられる。

○「学校のきまりを守っている」という質問に対し、「はい」の回答が78.3%と市や県よりも10ポイント以上高い。また、「家でのきまりや約束を守っている」という質問に対しても、「はい」の回答が71.4%と市より12ポイント、県より15ポイントも高い。これらのことから、規範意識が高く、落ち着いた日常生活を学校および家庭でも送っていることが伺える。

●「1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDなどを見たり、聞いたりしますか」という質問について「1時間以上2時間未満」という生徒の割合は38.1%で県の平均を5.6ポイント上回っている。しかし、「2時間以上3時間未満」という生徒は24.3%と多く、「3時間以上」と答える生徒の割合と合わせると、38.5%となり生徒全体の3分の1以上となっている。また、「1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか」という質問について「3時間以上」と答えている生徒は16.4%いて、県や市の平均よりは少ないもののかなりの割合であることが分かる。このことから、「1日にどれくらいの睡眠をとることが多いか」という質問について県や市の平均より多い11.6%の生徒が「6時間より少ない」と答えており、テレビ視聴やゲームに時間を割いてしまい、結果的に睡眠時間が少ない生徒の割合が高くなってしまっているのではないかと考えられる。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	教科全体の平均では、すべての教科において、県平均・市平均の正答率を1.6～4.5ポイント上回っている。社会・数学・理科・英語については、ほとんどの領域・分野について、市平均を上回っている。しかし、国語では、苦手な領域・分野がみうけられる。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	各教科の「思考・判断・表現」の平均正答率は、社会・数学・理科・英語で、県平均・市平均を上回っている。 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は、県平均・市平均を10ポイントくらい上回っている。
家庭学習の充実	各学年で、自主学習ノートを使用して、自主学習を毎日行うように指導を行っている。また、学年により基礎学力テストを行うための課題を提示し、家庭学習で取り組むよう指導している。	「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答が、81.5%、「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が、99%と高く、家庭学習を行う習慣が身に付いている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭で、自主学習を毎日行うことはできていると考えられるが、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答は、93.7%であるが、「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の肯定的回答が57.7%である。	宿題・自主学習の内容の改善	各教科で、生徒のつまづいている点を授業で学び直しとして取り上げ定着を図る内容のものにしていく。また、学年で実施している小テスト(授業の内容を理解すれば解けるレベル)のための自主学習として取り組ませていく。
国語の領域・観点別の正答率において、「話すこと・聞くこと」「読むこと」について、県平均は上回っているが、市平均は下回っている。	各教科においての「話すこと・聞くこと」「読むこと」の力をつける取り組み	各教科の「見せ合い授業」の中などで、問題をよく読み、考える時間を十分にとるような活動や自分の考えを書いて発表し、それに対してまた考えをもてるような学習活動を意識して行う。また、総合的な学習や学活で、「振り返り」等で、自分の考えを書き、発表するような場面をつくる。

